

うだ
Vol.6

編集：山口 麻那

フェス実行委員会が
企画メイキングを
n0+eで発信！Instagramで
宇陀オーガニック
発信中！

目次

- ① 実行委員長が語る 2026年フェス企画の狙い
- ② テーマ野菜が決定！
- ③ 【大試食会】で宇陀の野菜を知ってもらう
- ④ 3つだオーガニックビレッジフェス2026 開催概要
- ⑤ (振り返り投稿) 宇陀小農の販路を考える
- ⑥ フェス開催までの執行部会議Day4レポ
- ⑦ ひとり農業の壁を越えて 第二回 水田一秀氏

食べて、知って、語り合う！
宇陀の農業の「これから」

宇陀オーガニック ビレッジフェス 2026

開催：11月22日(日) 10:00～18:00 まで！

場所：類農園 Vutai(ヴタイ)

【宇陀農業の未来の担手を徹底討論】

フォーラム1：若手×ベテランが語る

「宇陀での就農とリアルな経営」

●プロ農家激推し！ 秋野菜の「大試食会」

●宇陀テロワールを満喫♪ 食のマルシェ

① 実行委員長が語る

2026年フェス企画の狙い

実行委員長 小川 泰文
(有限会社 類農園)

あらすじ

大きな転換点になった「オーガニックビレッジ宣言」

宇陀市が、全国初の「オーガニックビレッジ宣言」を行ってから四年。手探り状態で始まったフェスは、回を重ねるごとに農業者同士の繋がりを深めて、経営や技術を共に学べる貴重な共創の場へと成長しました。

一方で、本事業は、今年度でオーガニックビレッジの交付金が一区切りを迎えるため、来年以降

「定着・拡大」するかどうかの分岐点に立っています。

今後の鍵は、「一部の有機農家の事業」と捉えられがちな現状を乗り越え、有機や慣行の枠を超えたすべての農業者が協力し合う『有機的なつながり』を宇陀市域に生み出すことです。

今年のフェスは、多様な農業者が集って本音で語り合うことで、次の日から

「あの人とこんなことやってみたいな」という想いが生じて、新たな協力や活動が生まれるような起点となることを目指して開催します。

続きはこちら



② テーマ野菜が決定！

【大試食会】で宇陀の野菜を知ってもらう

田尻 恵士
(サムズアップ農園)

あらすじ

「見る」から「食べて惚れる」へ。宇陀の農家が届ける、本気の農家メシ。

昨年のフェスでは、開催した「さんとこマルシェ」を通して、「食わずに見るだけでは、野菜の本当の味は伝わらない」という農家自身の気づきがありました。

そこで、今年のフェスは「大試食会」へと進化します。農家同士が自慢の作物をお互いに食べ合い、情熱や技を認め合うだけでなく、来場者の皆様へも、農家自身が一番美味しいと知るシンプルな「農家メシ」スタイルで、宇陀の誇る旬の味覚をお届けします。

まず、プレイベントでは、野菜を生でかじった際のみずみずしさや、火を通した甘みなど、言葉や写真を超えた本当の美味しさを五感で実感できます。

宇陀の農家が届ける「とっておきの一品」にぜひ出会いに来てください。

続きはこちら



10/31～11/1
うださんフェスタで
開催します！

③うだオーガニックビレッジ フェス2026 開催概要

あらすじ

宇陀オーガニックビレッジ四年間の実践を検証する「宇陀農業未来会議2026」。大試食会／マルシェと本音のフォーラムが十一月二十二日（日）、VUTAIで開催。

うだオーガニックビレッジフェス実行委員会は二〇二六年十一月二十二日（日）、「農と学びの共創拠点VUTAI」（宇陀市）にて「宇陀オーガニックビレッジフェス二〇二六」を開催します。その内容をまとめて紹介します。

内容の中心は、フォーラム「宇陀農業未来会議2026」で、坂ノ途中・小野邦彦氏のファシリテーションのもと、宇陀市の農業経営のリアルや二〇二二年から四年間続くオーガニックビレッジ事業の成果を検証。第三部では、農業者自身が公民連携の未来を討議する。

併催のうだ産品「大試食会」（十時～十五時）や人気の「うだマルシェ」、子ども向け食育体験ブースも実施し、生産と対話の両面から宇陀農業のNEXTステージを考える一日を目指します。

続きはこちら



実行委員会へのお問い合わせは

④（振返り投稿）

本編はこちら↓



宇陀小農の販路を考える

窪一

（NPO法人ハンサムガーデン）

あらすじ

一年経過後の振返り投稿…直売所リーダーが語る「旬の駅」利用術

本記事では、規格外野菜を「お得感」に変えてヒットさせる販売テクニクから、「農家御用聞き」や社内アプリを通じた需要の掴み方、端数価格や消化率データを用いた戦略的な値付けまで、小農がフレキシブルに利益を出す実践ノウハウを伝授。さらに、月二回の迅速な振込体制が安定経営を支える仕組みも詳しく解説します。

本編はこちら↓



⑤フェス開催

までの執行部会議

Day4レポート

窪一

勝手判らずスローなフェス執行部ですが、やっとフェスの方向性が決まってきました。「本音の対話から宇陀農業のネクストステージ」と苦しいところから、内容を絞り出しています。

ここに、小野社長@坂ノ途中様とのミーティングを経て、飛躍的にやりたい事が形になって参りました。

うだオーガニックビレッジフェス実行委員会事務局
〒633-0292
奈良県宇陀市榛原下井足17-3 宇陀市役所2階
宇陀市農林課 オーガニックビレッジ推進室内
オーガニック通信編集部
nourin@city.uda.lg.jp

⑥ひとり農業の壁をこえて

山口麻那
（大学インターン生）

あらすじ

第二回 水田一秀さま（水田農園） 兵庫県丹波市

この取材シリーズは、一人での農業経営に限界を感じて組織化を進めた農家へお話を伺い、次世代の農家がチーム営農化で成功するためのヒントを得ることが目的で始まりました。

水田さんは、広島県出身で、ご家族は農家ではなく、大学卒業後に上海交通大へ留学。帰国後、二十七歳で農業を志して、宇陀市の有機農業法人で四年間研修を積む。そこで、栽培技術と原価計

続きはこちら



算などの経営視点を学んだのち、果菜類の技術を広げるため丹波へ移る。二年の準備を経て、二〇二一年四月に独立。

開業時から人を雇う前提で資金計画を立て、作業場兼住居も建て、国内外から期間限定の人材を呼び込む仕組みを作った。現在は常勤三名・短期二名の体制。耕作面積はハウス約二十棟・露地約一haに拡大し、法人化を準備中である。

また、法人化への考え方や、日々のマネジメント方法、次の三年で番頭を育てる「組織づくり」などの秘訣は、続きの取材ブログにて掲載中。